

# 新年のごあいさつ

一般社団法人 火力原子力発電技術協会  
会長 岩谷 全啓



新しい年を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆さまにおかれましては、穏やかな天候のなか新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、7月より原子力発電所の再稼働に向けた原子力規制委員会による審査が始まりました。我々事業者としましては、1日も早く再稼働できるよう真摯に対応してきておりますが、なかなか厳しい状況が続いており、未だ再稼働の目途が立っていない状況です。

しかしながら昨年末には、エネルギー基本計画の骨子が示され、これにより原子力発電の位置づけもある程度明確になってきました。また臨時国会で電力システム改革の法案が成立しました。これからの電気事業の変革の方向性を示すものかと思っております。

この平成26年は、短期的には原子力の再稼働に向けた取組みを進め、そして中長期的には電気事業の形が大きく変わってくるのではないかと考えています。すでに各社さまにおかれては、様々な準備をされていますが、具体的には、業態を超えたアライアンスを組み、新たに発電事業を始めようとされる方もおられます。今まで発電事業に参加されていなかった企業の方々も発電事業に参画されたり、今までの事業を拡大されたり、色々な形のプレイヤーの方が現れてくるのではと思っております。

我々火力原子力発電技術協会では、会員の皆さまの技術的な交流の場、また人的交流の場をしっかりと作り、プラットフォーム的な役割を果たしていくことを申し上げてきました。これからは更に、新しいプレイヤーの方々にもご参加いただき、より多くの会員の皆さまにお役に立てるように努めてまいります。更には日本の火力原子力発電技術の発展に少しでもお役に立てるような活動を進めてまいりたいと思っております。

一方、一般電気事業者の方をはじめとして、電力業界では効率化が推し進められています。また経営状況も決して楽なものではありません。一部の電力会社では給料が抑制されているところもございます。そのような会員の皆さま方から貴重な会費を頂いておりますので、我々火力原子力発電技術協会としましては昨年より一層の業務効率化に取り組んでいます。更にこの平成26年も効率化に向けた検討を進め、効率化の中で如何に会員の皆さま方の期待にお応えできるかに取り組んでまいります。次回火力原子力発電大会についても、中部支部のお力添えを頂き、中身を充実させながら、経費を極力削減した大会にしようと検討を進めています。このような活動を協会事務局一同しっかり取り組んでまいり所存でありますので、本年も皆さま方のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆さまのますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

～2014.1.9～

## 火力原子力発電技術協会 賀詞交換会開催

1月9日(木)、港区「八芳園」において、「新年賀詞交換会」を開催しました。

電力、メーカー、工事会社等の会員ならびに経済産業省の関係者約220名の出席がありました。主催者を代表して、岩谷全啓会長のあいさつに続き、経済産業省商務流通保安グループ 審議官 村上博之様よりごあいさつをいただきました。

そのあと、佐野敏弘関東支部長の音頭で乾杯した後、参加者の皆様に歓談しました。

### 新年あいさつ（岩谷会長）



来賓あいさつ（経済産業省：村上審議官）



乾杯あいさつ（佐野関東支部長）



歓談模様

